



～文化遺産を訪ねて歩こう!!～

昨年4月号からことし3月号までの上尾歴史散歩は、『あげお歴史探検マップ』をもとに、市内の文化遺産を訪ね歩く市内の散策コースを紹介いたします。1～3月は、上尾・上平地区周辺のコースを巡ります。なお、4月号から上尾歴史散歩はしばらくの間お休みします。



「少林寺の山門」

距離	時間
⑤密蔵院 1.61km ↓	20分
⑥龍真寺 0.47km ↓	5分
⑦観蔵院 1.94km ↓	23分
⑧少林寺 0.48km ↓	5分
⑨龍山院 1.76km ↓	21分
北上尾駅ゴール	

★時間は、歩いたときの目安の所要時間です



4月 今に伝わる祈りの文化

5月 荒川周辺に花開いた文化

6月 人と文化が繋いだ町

7月 街道に刻まれた歴史

上平地区の文化財をめぐる

「密蔵院」⑤から北へ進んでいくと、曹洞宗「龍真寺」⑥がある。龍真寺には市指定文化財の本尊「木彫釈迦三尊座像」と「木造達磨大師座像・招宝七郎大権修利菩薩倚像」がある。

いずれも江戸時代中期に、鎌倉時代の代表的な仏師である運慶の流れをくむ京都の七条仏師によって制作された。また、龍真寺の西南方向には真言宗「観蔵院」⑦があり、ここには、市指定文化財の「木造十一面観音座像」がある。地域や寺院の歴史を今に伝える文化財となっている。

観蔵院から西に進み、かつて上平村役場があり、現在も支所、公民館、小学校が建つ地域へと入っていく。

ここを東西に貫く「べにばな通り」(県道上尾久喜線)はこの地域の特産であった紅花に由来している。江戸時代中頃より上村から上尾・桶川地域に広まったといわれる武州紅花は有名な最上地方(山形県)の紅花に対して早く収穫できる早場ものとして高値で取引されたといわれ、その様子を示す「須田家文書」(市指定文化財)も残されている。

上平小学校に隣り合って、名刹「少林寺」⑧がある。創建年代は市内最古の鎌倉時代・正徳元(1288)年

まで遡ることができ、開基は執権北条時宗の正室とされ、縁切寺・東慶寺の建立にも関わったといわれる寛山尼である。少林寺は、円覚寺(神奈川県鎌倉市)の末寺でもあり、鎌倉とのゆかりが深い。また、江戸時代の「門前村」という村名や現在の「西門前」という地名の由来ともなっている。文化3(1806)年の火災で、それ以前の記録や仏像などは失われてしまったが、宝暦3(1753)年に建てられた山門は火を免れ、市指定文化財の建造物として現在も守られている。

少林寺の西側の住宅と畑が入り交じる地域の中に、「龍山院」⑨がある。境内に入ると、本堂の手前に聳える市指定天然記念物の「むくろじ」が目目を引く。十三代の寛本和尚が、檀徒と共に諸国の札所巡礼を成し遂げた記念として、正徳元(1711)年に植えたものと伝承されている。6月頃に淡緑色の花をつけ、丸い実を結ぶ。龍山院の門前から西側に、社叢を望むことができる上の氷川神社を抜け、西南へ進むと「街道に刻まれた歴史」を巡るコースのゴールである「R北上尾駅」に到着する。

(上尾市生涯学習課)